

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX049-272-7092 ホームページ <https://hatoyama.info/>

1月・2月の活動予定



本年も
よろしくお願
い
いたします。
NPO法人はとやま環境フォーラム
代表理事 愛場謙嗣

■冬の「熊井の森」を歩こう一観察会&報告会

1月20日(土) 午後1時、かわせみハウス前に集合。
車で一緒に熊井の森に行き、冬の生きもの観察。案内ガイドは串田宏人さん(埼玉県生態系保護協会)。定員20人。
戻ってきて、午後3時から4時までは「熊井の森の里山づくり活動報告と今後の活動」についての話し合います。今年初めての活動ですので、新年会代わりの顔合わせの集まりになりますので、ぜひお越しください。参加費無料。

■今年度最後の「熊井の森写真学校」を開催

1月27日(土)、午前9時かわせみハウス集合。撮影フィールドは未定。真冬の1月開校は初めてで、どんな撮影ができるか楽しみです。受講者自身が受付や会場づくりなどを持ち回りで行う自主運営方式も順調です。先日、「うちの施設の企画としてコラボしませんか」との申し出がありました。実現すれば、会場費は施設管理者持ちになるかも。来年度どうするかを相談しましょう。

■埼玉未来大学で環境フォーラムの活動紹介

2月8日(木) 午前10時15分より、西部学園(ウエスト川越)で「人生100年時代における市民活動のす

1月・2月 その他の活動予定

- 1月7日(日) 8時半～ 資源回収
- 1月10日(水) 午前9時半～ 1月定例理事会&例会
- 1月10日(水)～16日(火) 武州・入間プロジェクト活動パネル展示 会場・そよら武州狭山(武蔵狭山市)
- 2月 4日(日) 午前8時半～ 資源回収
- 2月13日(火) 午前9時～ 2月定例理事会&例会

令和5年度埼玉県森林ボランティア育成事業 後援/鳩山町

植物・野鳥観察会

冬の「熊井の森」を歩こう

専門調査員と一緒に歩き、生物多様性に優れた熊井の森の様子が学習できる格好の機会です

2024年1月20日(土) ●午後1時集合
集合場所●かわせみハウス前(鳩山ニュータウン中央場ヶ丘郵便局横)
※車で一緒に、熊井の森に向かいます

観察会
「熊井の森」で冬期の生きものたちとの出会いを楽しむ

現地集合●午後1時30分
現地場所●石場沼下臨時駐車場
(鳩山町熊井の森西端の道を上った突き当り)

観察場所●熊井の森
講師●串田宏人(公益財団法人埼玉県生態系保護協会)
定員●20人(事前申込み者優先)

参加費 無料

報告会
「熊井の森」の里山づくり活動報告と今後の活動について

報告会場●かわせみハウス
報告時間●午後3時～午後4時
報告者●加藤博(NPO法人はとやま環境フォーラム)

串田宏人氏

《主催》NPO法人はとやま環境フォーラム
Tel:049-227-3001
mail:kawasemi3001@gmail.com

め」(主催・公財いきいき埼玉)と題した講演依頼あり。環境フォーラムの活動を紹介してきますが、我々の活動に新たな仲間が増えることを期待して、頑張ってきます。

■あなたの知らない鳩山の「絶景」写真展

2月16日(金)～20日(火)、鳩山NT内ふれあいセンター1階コミュニティ・マルシェ研修室で、町内外の写真愛好家に協力いただき、「えっ、鳩山にもこんな絶景があったんだ!」と思わせるような風景写真を展示して、鳩山の自然の魅力に目を向けてもらう写真展です。熊井の森写真学校の受講者たち自身が選んだ「この1点」と、講師の三森典彰氏の素晴らしいネイチャーフォトとを展示する「作品展」も同時開催します。2023年度(公財)サイサン環境保全基金助成事業。後援・鳩山町。乞うご期待。ぜひ、会場に足をお運びください。

12月の活動報告

■西部地域市民活動団体交流会に参加



12月1日（金）午後1時～3時、ウエスタ川越4階大会議室で開催の「西部地域市民活動団体交流会」に参加してきました。主催は（公財）いきいき埼玉。会場には60人程。環境フォーラムの活動を紹介するパネルを展示し、講演を聴いた後、テーブルごとに分かれて、課題を出し合うワークショップに加わりました。環境保全・教育活動を行っている団体が4団体ほどいて、たまたまテーブルが一緒だった「仙波の田んぼ緑肥の会」の齋藤孝明会長（写真左）は熊井の森に足を運んだことがあり、お仲間の大野孝氏は電大同窓会副会長さんで、「来年の電大学園祭にはぜひ参加してください。学生たちに里山づくりのボランティアを募りましょう」「伺います」と意気投合しました。

■第41回ナショナル・トラスト全国大会で活動報告



臣・中川雅治氏が挨拶し、まずは、ボルネオでの熱帯雨林保護というグローバルな活動の講演。その後、「熊井の森」という全く無名の、どこにでもありそうな里山の保全を始めたばかりの小さなNPO団体の活動報告をする事に。しかも、後に続く報告は、日本でのナショナルトラスト第1号の「天神崎の自然を大切に作る会」と北海道の霧多布湿原保全活動が続ける認定NPO団体の報告とあっては、もう、聞き直してやるしかない。で、「熊井の森」「熊井の森」と連呼し、課せられた報告ポイントの「熊井の森を守るにあたって立ち上げ時にやったこと」を発表してきました。交流会では2つの団体の代表者とも話ができました。それなりに熊井の森のPRは出来たような感触がありました。



▲交流会記念写真

■フォーラム懇親会で盛り上がりました

12月17日（日）午後3時～5時、かわせみハウスで懇親会。参加者13人。上田恵介さんや滑川町でアーティスト活動をしている小林三悠さんらも来てくれ、環境フォーラムの活動に関心があるという女性の初参加もありました。乾杯はビールとお茶。熊井の森からいただいてきたモミの木に飾りを付けてちょっぴり、クリスマステイストに。手作りお菓子の差入れも。トラスト大会での報告パワーポイントの披露には拍手もあり、仲間たちの優しさに感謝です。



▲ご苦労さまでした。来年も熊井の森で楽しみましょう



12月9日（土）午後2時～4時30分、池谷奉文・日本生態系協会会長の開会挨拶に続き、同会顧問で元環境大

第4 1回ナショナル・トラスト全国大会 活動報告（抜粋）

トラスト活動を始めるにあたっての課題

東京郊外の丘陵地帯のどこにでもある里山

- ・なぜトラスト地として残したいのか
- ・それだけの価値がどこにあるのか

その価値の掘り起こしと周知・広報が必要に

② 取得に向けて行った1つ目のこと

1 里山を「熊井の森」と命名



- ◎ 活動場所に名前がない。「アレ」「アソコ」では不便。我々が活動する場には名前が欲しい。
- ◎ 薪炭林としての利用がなくなり、昭和40年代以降現在までの約60年間、“忘れられていた里山”への関心呼び戻したい。

名前を付ける必要があった

シンポジウムとワークショップで見つけた 鳩山町と「熊井の森」の価値・魅力

I 自然財産

ミゾギイサシバ、コクランなど絶滅危惧種が数多く生息する生物多様性豊かな「里山」という貴重な自然財産

II 文化財産

奈良時代の最先端シリコンパレーであった、東日本最大級の窯跡群「南比企業跡群」という文化財産

III 農業遺産

「谷津田」稲作農業を支えた「ため池」が19ha、70カ所もあること「ため池農法」という農業遺産

地域の信頼を得るための4つの取り組み

① 本気度を示す	② 具体的貢献	③ 経済価値と訴求力を実証	④ 仲間としての「よそ者」の役割
取得資金集め ・呼びかけ団体自身として自己資金を募る ・クラウドファンディングで全国に呼びかけ ・トラスト助成申請	獣害対策協力 ・アライグマの防除活動参加 ・山林と周辺の休耕地の草刈り	地域の魅力発見 ・味覚体験イベント ・はと麦栽培 ・写真学校 ・写真展 ・熊井の森MAP作成 ・小冊子発行	地域の仲間入り ・休耕地草刈り ・稲刈り手伝い ・地元神社奉納 ・地元農産物直売所出店

③ 取り組みの成果

- 1 地元の区会が、地元住民向けの「説明会」開催を了承
→団体認知・看板設置の受入れ
- 2 2022年10月に、鳩山町町制施行40周年記念事業として「鳩山SAT OYAMA写真展」を開催
→「熊井の森」の名称が周知
- 3 2024年度から熊井の森のナショナル・トラスト山林の固定資産税が免除措置
→町も団体と活動を認知
- 4 地域づくりへの協力者として、環境保護団体への見方が変化
- 5 山林を「売ってよい」「買ってほしい」という地主が現れるようになった
- 6 休耕地の畑を使ってほしいとの依頼も相次ぐ

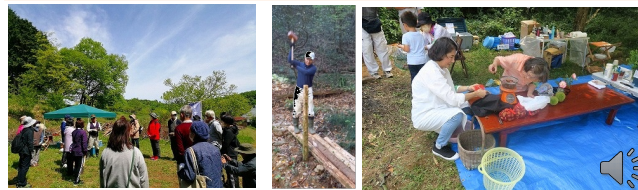
④ トラスト活動で気付かされたこと

- 1 自然の素晴らしさをよく知っているのは地元の人たち
 - ・この地域は鳩山町でも数少ない区画整理が行われていない場所である
 - ・石場沼と観音寺沼の谷津田でのため池農法による稲作りが今も行われている
 - ・自家消費用に低農薬で米を作っている。養蜂をやっている人もいる
 - ・かつては、谷津でホテルを増やすために用水路にカワナを放したりした



④ トラスト活動で気付かされたこと

- 2 「トラスト地取得」から「自分たちの居場所づくり」へ
当初、立ち上げ時に取り組んできたこれらの活動は、地元と仲良くなり、山を売ってもらいたい、という「山林取得の手段」という側面が否めなかった。
しかし、今はその活動そのものが楽しくなってきた。
「楽しいからやっている」「そこに自分たちが所有する山があることの充足感がある」
トラスト活動に関わるのは、実は「自分たちの居場所づくり」のためなのではないか、と気づかされた。



熊井の森 トラスト地 (2023年12月1日現在)

熊井の森 (約97.4ha)	
(旧ゴルフ場計画全体の面積)	
974.490㎡	
町有地 (約17ha)	
熊井地区	118,810㎡
大豆戸地区	40,800㎡
共有持分	9707.9㎡
(合計)	169317.9㎡

民有地 (約78.1ha)	
トラスト地 (約2.7ha)	
1号〜7号取得林	18570㎡
借地林	8,684㎡
(合計)	27,254㎡

※参考試算

ニーハオ 熊井の森歳時記

青い宝石を探しに行きましょう



ジャノヒゲ

冬、落ち葉に覆われる林の地面に、寒さに負けず、一生懸命に木々の間から射してきた日光を吸収し、冬越しのエネルギーに変える青々しいこんもりとした植物があります。しゃがんで手で分けてみると、たくさんの青い宝石がキラキラと輝いています。そう、ジャノヒゲ（蛇の髭）とその種です！

日本を含む東アジアの林床などに自生する常緑多年草の一種。和名の「ジャノヒゲ」は細長い葉を伝説の大蛇の髭に見立てたもので、なんともロマンチックな想像力です。リュウノヒゲ（竜の髭）とかも呼ばれています。それに対し、「ジャノヒゲ」の中国名のひとつ「書帯草」の由来は、その丈夫な葉が古代の文人に書簡を結び帯や紐として使われたからのようで、完全に実用派ですね。紡錘形の根っこは漢方薬「麦門冬」の材料であることはつい最近知りました。以前、咳が出たとき漢方の先生がこの麦門冬湯を処方してくれました。

庭園や敷石の脇などガーデニングでよく使われるので、あちこちで見かけることができ、私の好きな野草のひとつです。このお正月に、その美しい宝石を探しに行きましょう、よかったら熊井の森までどうぞ。（王菲）

<活動雑記>

■先日、都内の地下鉄で偶然目に止まった車内広告。小川町満喫特別切符のPR観光ポスターだ。収穫体験や移住家族の暮らしぶりなどの写真に添えた「暮らすように旅したい」「何度でも来訪したくなる<第3の学びの場>」のキャッチコピーがにくい。鳩山も自然の豊かさや隠



れた観光資源では劣らない。都心への近さはアドバンテージのはず。それらを活用した町おこしは夢物語ではない、とポスターを見てひとり燃えた。（愛場）

活動の基本方針

「熊井の森の自然保護」と「自然の恵みの活用」



1.活動の出発点

「熊井の森」がいわゆる「里山」という概念に当てはまるかどうかは検証を要するが、少なくとも、今我々が関わっている「熊井の森」の生態系の現況調査を重ねながら、それに基づく「熊井の森の自然保護」を行うのが活動の出発点である。

2.活動の目的

自然保護(生物多様性の維持・促進)のための「保全」活動と、自然の恵み(生態系サービス)の恩恵の再認識・学習のための「活用」活動を行うこと。

3.活動の場所

第1次的には我々が所有（賃貸含む）する「トラスト地」である。第2次的には熊井の森全体が対象だが、熊井の森全体の将来目標は未定である。

4.活動の進め方

当該年度計画・3か年計画・5か年計画と複数年計画を立て、「ゾーニング」の作成合意を待たずとも、すでに活動を始めているエリアでの活動は順次進めていく。

5.「活用」と「活性化」の区別

自然の恵みを「活用」した各種活動と、地域コミュニティの「活性化」（にぎわい＝地元の人が元気になる、外から若者や若い世代が訪れ、生計手段を生み出すこと）とは区別する。その上でつながりを考える。

6.活動の担い手

持続可能な保全活動のためには担い手の確保が必須である。自然観察会やエコツーリズムイベントなど“様々な入口”を通して、担い手を増やす努力をする。

熊井の森トラスト基金へ支援金を

★1口5,000円から

<振替口座>

■ゆうちょ銀行

記号番号 00210-4-143207

加入者名 熊井の森トラスト基金

<普通口座>

■ゆうちょ銀行 支店 〇三八

口座番号 9472664

口座名義 クマイノモリトラストキキン

（熊井の森トラスト基金）

★年会費3,000円支援の場合

■ゆうちょ銀行

店名 〇三八 店番038 普通預金

口座番号 96656981

口座名義 トビハヤカキョウフォーラム